

平成 24 年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

| | |
|-----------|---|
| 所 属 | 材料工学専攻 |
| 研究者(ふりがな) | 史 蹟 (し せき) |
| タイトル | 東京工業大学-大連理工大学材料工学分野における大学院生主体の合同ワークショップ |
| 助 成 名 | AOTULE 加盟大学以外のアジア・オセアニアの大学との教育研究連携助成 |
| 採択金額 | 1, 000, 000円 |
| 背景と目的 | <p>本学材料工学専攻（金属分野）は大連理工大学の材料科学と工程院と部門間の教育・研究協力に関する協定を2008年3月に結んだ。両部門間に良好な関係を築き、情報・研究成果の交流活動を円滑に進めるため、定期的にワークショップを開催することに合意した。本申請までに東京で2回開催し、両大学から多くの教員・大学院生が参加し、研究成果の発表や、教員・学生間の交流を行った。それ以外に研究室見学や、工場見学も行い、大連から参加した大学院生および教員に日本の材料教育、研究、生産の現状を知る機会を提供してきた。本申請は平成24年の9月に大連理工大学で大学院生主体のワークショップを開催する企画である。</p> |
| 実施概要 | <p>「東京工業大学-大連理工大学材料工学分野における大学院生主体の合同ワークショップ」を2012年9月5日から6日まで大連理工大学で開催された。東工大側7名の教員と10名程度の大学院生で参加した。大連理工大学側は教員10名、学生20名程度が参加した。</p> <p>ワークショップは、両大学の数名の教員と大学院学生による研究成果の発表および討論を行った。特に大学院生は口頭とポスター両方で発表した。</p> <p>具体的な日程は以下のようであった。</p> <p>9月4日： 移動、夕方材料学院日本語強化クラスの学生との交流会を行った。</p> <p>9月5日： 終日ワークショップ</p> <p>9月6日： 午前 ワークショップ 午後 工場見学会</p> <p>9月7日： 東工大の教員、学生が帰国</p> |

本年度の成果

1. 今回の合同ワークショップに通じて、両大学の教員、大学院生によって、研究成果の交流を行って、両サイドの連携をさらに強化された。
2. ワークショップ期間中に材料学院の日本語強化クラスとの交流を行って、東工大の留学制度などについて説明した。
3. 中国の工場に行ってみ学を行って、東工大の学生に中国の材料の生産、加工の現状を認識してもらった。
4. さらに、成果として、25年度の国際大学院プログラムに、大連理工大学材料学院の学生は2名合格した。また、今年3月に金属工学科の3年生を5名を大連に派遣し、大連理工大学で交流活動を行った。



ワークショップ会場



学生の発表



ポスターでの討論

国際連携用

| 使用内訳書 | | |
|-------|------------|-------------|
| 費 目 | 内 訳 | 金 額 |
| 備品 1 | | |
| 備品 2 | | |
| 消耗品 | ポスター印刷用紙など | 20千円 |
| 旅 費 | 学生10名派遣の旅費 | 980千円 |
| その他 | | |
| 合 計 | | 1,000 千円 |

記入上の注意：

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。